

インバウンドビジネスへの対応に向けた「昭和の町」国際化プロジェクト

指導教員：大分県立芸術文化短期大学 国際総合学科 専任講師 秋庭 淳志
協力：豊後高田市、特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた

地域課題

本事業で着目した地域課題は、インバウンド需要の獲得に向けた「インバウンド観光客のターゲット設定」と「観光消費を促す仕組みづくり」となる。なお、国ごとに観光スタイルや消費動向などが異なるため、地域課題解決の方向性を探るためには、ターゲットの設定が求められる。

外国人観光客数が回復していない



【課題①】
インバウンド観光客のターゲット設定

【コロナ前との観光客数比較】
国内観光客：約81.7%
外国人観光客：約56.1%

（出典）豊後高田市「令和6年度版 市勢要覧 豊後高田市のすがた 資料集」

観光消費額が伸び悩んでいる



【課題②】
観光消費を促す仕組みづくり

【一人あたりの観光消費額】
約2,054円

（出典）豊後高田市「地域再生計画『豊後高田昭和の町』プランディング事業～次代へつなぐまちづくり～」

+

事業目的

本事業の目的は、インバウンド需要の獲得を見据え、市内のインバウンド対応の実態を把握し、多言語対応等に関わる課題を明らかにすることである。

そのために、豊後高田昭和の町にて多言語対応等の実態を把握する店舗調査を実施した。また、インバウンド観光客に見立てた留学生の行動を観察する調査等も併せて行った。

【目的】

インバウンド対応の実態と課題の把握

【手段(調査)①】

多言語対応などの実態把握を目的とした店舗調査

【手段(調査)②】

インバウンド観光客に見立てた留学生の行動観察

事業内容

本事業では、学生がマーケティング調査に関わる知識などを習得し、豊後高田市の事前学習を行った後、3回にわたりフィールドワークを実施した。第1回目は豊後高田昭和の町に立地する店舗にてインタビュー調査を行い、インバウンド観光客の消費動向を調査した。第2回目の調査では、店舗調査および留学生の行動観察調査を実施し、昭和の町における多言語対応等の実態を把握した。第3回目のフィールドワークは、多言語対応等に関わる実践知の獲得を目的として、インバウンド対応が進んでいる別府市にて調査を実施した。

なお、フィールドワークに参加するにあたり、学生は各種調査の項目を設計した。また、調査実施後は、その結果を取りまとめ、現状と課題を整理するとともに、豊後高田市への提案内容を検討した。その提案には、インバウンドビジネスへの対応において、特に優先すべき点が盛り込まれている。

【活動の流れ】

マーケティング調査に関わる知識等の習得／豊後高田市の事前学習

第1回フィールドワーク（豊後高田市）／店舗へのインタビュー調査

第2回フィールドワーク（豊後高田市）／店舗調査・留学生の行動観察

第3回フィールドワーク（別府市）／インバウンド対応の実践知獲得

豊後高田昭和の町における現状と課題の整理／提案内容の検討



地域への成果

地域への成果としては、インバウンド対応の課題が明らかになったため、高い効果が見込まれる施策を立案しやすくなった点などが挙げられる。なお、これらの課題の背景には、インバウンド観光客の購買を阻害する複数の要因が存在している。そのため、課題を解決することで入店率や購買率の向上等、店舗の売上に直結する効果が期待できるため、その対応が求められる。

【インバウンド対応の課題】

表層的な
多言語化からの
脱却

メニューの
多言語化

支払い方法の
外国語表示

本事業の結果、インバウンドビジネスに対応するうえで、高い効果が見込まれる施策が明らかになった。